

確実に新たな町づくりを

新年、明けましておめでとうございます。
年頭にあたり、町議会を代表し、新春のごあいさつを申し上げます。
町民の皆さまにおかれましては、本年が素晴らしい年であることを願い、希望を抱き、新しい年を迎えられたことと思います。
昨年は7月の九州北部豪雨災害等、全国各地で大きな天災が発生し、甚大な被害をもたらしました。
また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災からす

でに6年以上が経過しますが、復興は未だ道半ばであり、原子力発電に対する不安も払拭されていません。着実に解決されることを望んでいます。
さて、本町に目を向けてみますと、町民の願いでありました県立新設高校が、現市川高校とその周辺地に平成32年度開校予定で整備計画が進んでいます。
県立新設高校建設に伴う、保育所、町民会館、町民体育館などの町主要施設の移転・建設、またリニア中央新幹線、

中部横断自動車道計画の進捗に合わせ、長い将来をしっかりと見据える中で、早急に新たな町づくりを進めていかねばなりません。
厳しい財政状況であります。が、限られた予算の中で、本町の基本計画に基づき、教育・福祉・子育て支援の充実、また安全安心な、暮らしやすい町を目指し、諸施策や関連事業の推進など、確実に進めていかねばならないと考えます。
私たち議会といたしまして

も、初心を忘れずに、町民の皆さまの意思を反映した、開かれた議会活動を展開していきたいと思っております。
町民の皆さまのより一層のご支援と、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。ととて、より良い一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。
平成30年1月1日

市川三郷町議会議長
有泉希



戌年。

2018年は戌年です。
■人間の大切なパートナー
犬といえば、「知恵」「勇気」「誠実」の代名詞のような動物です。昔話の『桃太郎』や『花咲かじいさん』に登場するのも、そういう犬たちでした。主人が亡くなった後も、毎日駅前で待ち続けた「忠犬ハチ公」の話は有名です。
このように、犬は昔から、人間

の大切なパートナーでありましたが、今でも、狩猟犬や牧羊犬、盲導犬や警察犬、そして災害が多い近年では、災害救助犬として、被災地などで活躍する場面を目にすることが多くなりました。
■飼うことの効用
犬は、ペットとして飼われている代表的な動物です。平成28年全国犬猫飼育実態調査（一般社団法人

人ペットフード協会実施）によると、全国における犬の推計飼育頭数は987万8千頭で、飼育世帯数は790万2千世帯、飼育世帯率は14・16%でした。飼育頭数は平成27年の調査で1千万頭を割るなど近年減少傾向にあります。調査では、ペット（犬・猫）を飼うことで「子どもが」心豊かに育つ」「高齢者の」情緒が安定す

る」「夫婦の会話が多くなる」「生活に潤いや安らぎを実感できる」など、さまざまな効用があることが分かっていきます。
■犬ならではの「ことわざ」
犬は、ことわざにも多く登場します。
「犬に論語」は、どんなに道理を説いたり聞かせたりしても効果がなく、無駄であること。「夫婦喧嘩は犬も食わない」は、何でもよく食べる犬でさえ興味を示さ

ないことから、「他人が口出しする必要はない」「誰もともに相手にしない」という意味です。「犬の遠吠え」は、弱い犬は遠くから人に吠えかかる。同じように、弱い者や臆病な者が面と向かつては何も言えない相手に対して、陰で虚勢をはって悪口を言うことを表しています。
「犬も歩けば棒に当たる」は、犬も出歩くと棒で打たれるわけ、災難に遭うまいと思っ

たら、なまじ何かに手を出したり、出しゃばったりしないほうがよいという意味ですが、一方で、積極的に行動すれば思いがけず良いことがあるという意味で使われることもあります。
■今年は積極的に!!
今年も、賢い犬にあやかり、「知恵」と「勇気」を持って積極的にいきましょ。そして、幸運にもあえますように。

新たな施設・交通 町の発展へ

新年、明けましておめでとうございます。
昨年は、町にとりまして長年、懸案の大きな事業がありました。
1つは、高田排水機場です。1967年（昭和42年）に県営の湛水防除事業として設備され50年、排水ポンプの老朽化は著しく排水能力は公称能力の40%以下の毎秒1・4トンまで低下しておりました。平成2年9月に高田耕地組合が旧町議会に高田排水機場の全面改築を請願した記録があります。
高田大正田地区は、平成12年9月の豪雨により32ヘク

タールが浸水し、住宅18戸が床上、床下浸水など過去に幾多の浸水被害に遭った記録があります。
平成26年度から3年事業として着工し、昨年10月に完成しました。排水能力は毎秒4トン（毎秒1トン、4基）の最新設備で、ごみ除去装置を備えております。
また、町道矢作上野線、新三珠陸橋は、昨年2月、陸橋部分を完成し、通行できるようになりました。道路幅は11・25m（車道9・25m、歩道2m）で旧陸橋（4m）の2・8倍の幅員です。残る道路部分を含めすべての完成は平成

31年3月の予定です。
新年度は、保育所新園舎が6月完成予定です。また、新町民体育館と仮称生涯学習センター（図書館併設）の建設に着手し、計画として平成31年12月完成、平成32年1月オープン予定です。市川保育所、富士見保育所、市川大門町民会館は1980年（昭和55年）、建築基準法、政令、新耐震設計法構造計算導入前の建物として、耐震診断では既存不適の建て替えが必要とされる建物です。
町民体育館につきましても築32年、数年で建て替えの時期となります。

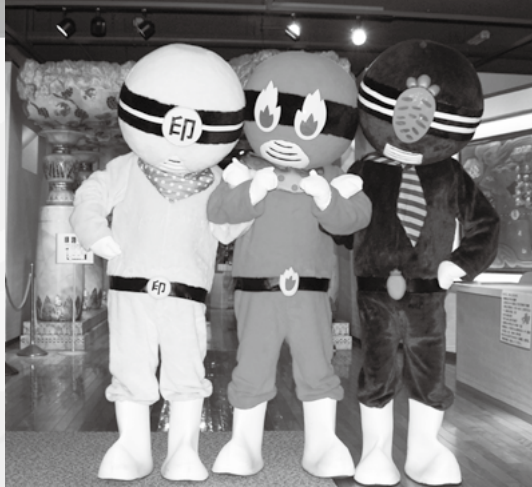
平成31年4月、中部横断自動車道六郷インターチェンジ以南が開通。平成32年4月、県立新設高校が現市川高校とその周辺地に1学年280名の県下最大規模で開校。10年後の平成39年、リニア中央新幹線、東京―名古屋間の営業開始など市川三郷町発展の好条件が整います。
町民の皆さまとともに財政規律を守り、ご高齢者を敬い尊ぶ畏敬の心と、子どもたちの未来に責任をもつ町政であることの決意を新にしております。
今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。
平成30年1月1日
市川三郷町長
久保眞一





▲3代目着ぐるみ（現在の市川三郷レンジャー）
平成25年9月29日「四尾連後線トレイルラン」



▲2代目着ぐるみ
平成22年10月3日「山梨うまいもの市 in フルーツ公園」



▲地域支援ネットワーク六郷作成の初代着ぐるみ
平成20年4月26日「ヴァンフォーレ甲府サクスデー」

誕生から10年

市川三郷レンジャー

のあゆみ

市川高校美術部の手によって生み出され、
たくさんの人に愛され、育てられてきた
市川三郷レンジャーは、誕生から10年を迎えます



■きつかけは

町民の方から提案

市川三郷レンジャーは町民の方から寄せられた「PRシールを作って不特定多数の人に町の名前を売り込んでほしい」という提案から始まりました。この提案を元に、町では誰でも気軽に貼れるシールを作成することが決定しました。

シールは「これからの町を担う若い方に、柔軟な考えでデザインしてもらおう」と考え、町から県立市川高校にデザイン作成を依頼しました。このとき自由な発想で「いちかわみさと」をイメージしてもらいたく、あえて条件や要望はつけませんでした。

この依頼を受けた市川高校では美術部がデザインの作成に取り掛かり、誕生したのが、町のPRキャラクター「市川三郷レンジャー」です。

ひと目で町の特産品がわかるこのキャラクターは、町をなんとかPRしようとする若い感性を感じられ、多くの方から好評を得ることができました。

■PR活動の

スタート

完成した市川三郷レンジャーは、広報いちかわみさとと平成20年1月号の表紙を飾り「PRキャラクターが誕生したこと」を皆さまに報告しました。

それぞれの名前は、親しみが持てるよう町民の皆さまを対象に募集し、400通もの応募の中からレンジャー産みの親、市川高校美術部が選考を担当しました。

その結果、名前は、井上僚太郎くん・尚哉くん・菜穂子さん親子が考えた「にんにん・ぼんぼん」に決定しました。

名前の発表は、平成20年3月8日につむぎの湯駐車場で開催された「キッズフェスティバル in 市川三郷」で発表されました。県内の自治体ではPRキャラクターがほとんどなく、また生まれた経緯も高校生とコラボという独自のもので、新聞、テレビなどでも大きく取り上げられ、町内のみならず県内全域に広く発信されました。

■着ぐるみでの

PR活動

現在、着ぐるみでのPR活動が当たり前となっていますが、町では始め、着ぐるみの製作は考えず、シールなどのグッズを中心にPR活動を行う予定でした。

このような中、大きな転機になったのが町内自主グループ「地域支援ネットワーク六郷」による着ぐるみの製作でした。

キャラクターが立体となり活動することで親しみが湧き、多くの方が着ぐるみとの交流を求めてきました。この活動が、認知度を深めたことは間違いありません。

残念ながら、この着ぐるみによる活動はボランティアという時間の制約もあり、その後ストップしてしまいました。が、着ぐるみの有用性を身をもって感じた町では平成21年、2代目となる3体の着ぐるみを製作しました。

その後、サンリオへ依頼し、より元のデザインに近い着ぐるみが、平成23年7月に制作され現在に至っています。

■さらなるPR

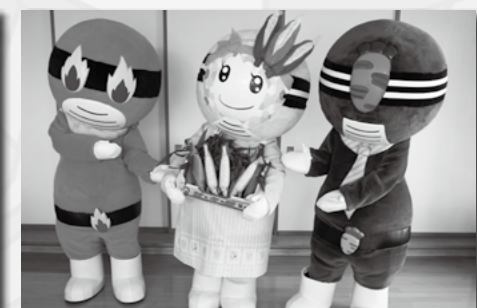
活動展開へ

着ぐるみを使用しての活動は主にイベントなどに出演し、会場で参加者と触れ合い、町のPRを行うことです。参加者は実際に市川三郷レンジャーと触れ合い、逢うたびに親しみが増しているようです。また対外との接点を常に持つていられるという意味で、町にとつて市川三郷レンジャーは「なくてはならない存在」に育ちました。

現在は、町の四季のお祭りをはじめ様々なイベントに参加するほか、これまでテレビ出演などの機会も多くいただけてきました。町内だけでなく、「世界キャラクターさみっと」「町イチ！村イチ！2017」といった県外でのPRの場も増えています。また、「にんどんぽん体操」や「市川三郷音頭」といった曲の展開もしてきました。平成29年には、甘々娘をPRするため登場した「かんかん」や歌舞伎をPRするため「どんどん」が「くまどりのお面」を付けて登場するなど、今後もまだ



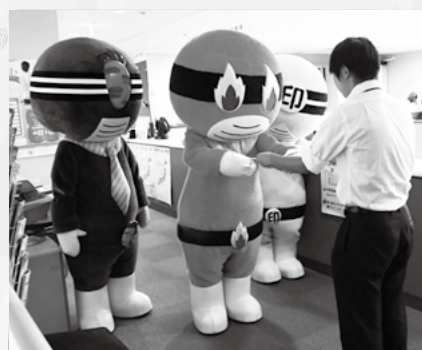
▲隠取りのお面をつけたどんどん
平成29年4月22日「ぼたんの花まつり」



▲ぼんぼんの変身という設定で登場した「かんかん」
平成29年6月10日「甘々娘収穫祭」

まだ新たな展開を計画していきます。

市川三郷レンジャーでのPR活動を有効に活かすためには、キャラクターを一つの人格と捉え、またその人格を育てることが非常に大切です。平成29年度には、市川三郷レンジャーに対し特別住民票を発行し、にんにん・ぼんぼん・ぼんぽんも一町民となりました。今後とも市川三郷レンジャーを、皆さんの手で育てていって下さいね。



▲特別住民票が発行され町の一員に
(平成29年9月)



▲市川高校生が考案した最初のステッカーデザイン



▲名前の決定のTV取材を受けるレンジャーと市川高校生
(平成20年3月8日)



市川三郷レンジャーが初めて紹介された「広報いちかわみさと」平成20年1月号

手話で話そう！
市川三郷レンジャーLINEスタンプ
全40種類 120円 販売開始

手話を使った市川三郷レンジャーがLINEトークを盛り上げるよ！

購入は、LINEアプリ内スタンプショップ、またはLINESTOREで！



閉館セレモニーでの記念撮影

市川大門体育館

32年の歴史に幕

今までありがとう

11月30日をもって閉館した、市川大門体育館では11月11日、第7回市川三郷スポーツクラブフェスティバルを開催し、終了後、閉館セレモニーを行いました。体育館の中心に参加者で輪を作り、これまでの思い出を振り返ったあと、利用団体を代表し、数名が「思い出の言葉」を語りました。最後には会場にいる方全員で「ありがとうさよなら体育館」を歌い記念撮影を行いました。



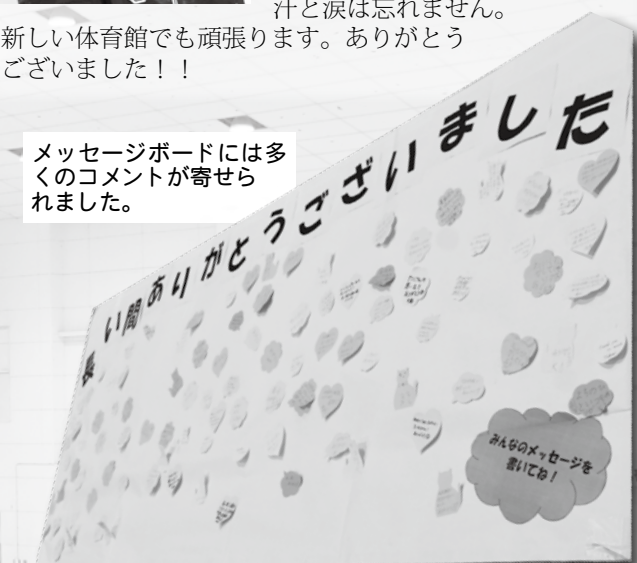
“ありがとう”と伝えたい
体協・バレーボール部部长
有泉 みさをさん

この体育館で、これまで多くのバレーボール大会を開催しました。山日杯ママさんバレーボール大会決勝を1度だけこの体育館で開催できたことがとても思い出に残っています。走馬灯のように32年間の思い出が頭を巡りますが、体育館には“ありがとう”と伝えたいです。



“汗と涙”忘れません
市川スポーツ少バレー部キャプテン
河西 向日葵さん

わたしたちスポ少バレーは、この体育館での練習のお陰で全国大会にも出場するチームになりました。この体育館で流した汗と涙は忘れません。新しい体育館でも頑張ります。ありがとうございました！！



メッセージボードには多くのコメントが寄せられました。



“帰ってくる場所”でした
市川ミニバス監督 内藤 達也さん

市川ミニバスの歴史はまだ浅いですが、過去には全世代が関東大会に出場した年度もあり、ここまで盛んになったのはこの体育館があったからだと思います。巣立った子どもたちが社会人になり、またこの体育館に“帰ってくる”のが嬉しいことでしたが、無くなるんだと…悲しさもありますが、新施設もできます。前を向いて頑張ります。

町民体育館の主な歴史

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 昭和60年 7月 | 「市川大門町民体育館」として竣工 |
| 昭和61年10月 | 第41回国民体育大会「かいじ国体」空手道会場 |
| 平成17年10月 | 合併により、「市川三郷町民市川大門体育館」となる |
| 平成25年10月 | 第28回国民文化祭・やまなし 美術展「書」開催 |
| 平成27年 9月 | NHK のど自慢大会開催 ゲスト：天童よしみ、小沢真珠 |
| 平成29年 7月 | 夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会開催 1,200名が集まる |



閉館セレモニーでの記念撮影

市川大門町民会館

37年の歴史に幕

11月30日をもって閉館した、市川大門町民会館では11月26日、第12回町民合唱祭を開催し、終了後、閉館セレモニーを行いました。町民の方300名ほどが参加し、利用団体の中から数名が思い出の言葉を語りました。最後には市川高校音楽部と会場にいる方全員で「花は咲く」を歌い記念撮影を行いました。

これからも歌い続けます！
ジュニアコーラスいちかわ 一瀬 美和さん



毎週、町民会館に通い、仲間と歌い、走り回り、歌がどんどん好きになりました。そんな町民会館に感謝しています。親子レク、将棋大会、ちょっぴりトイレが怖かったことなど、たくさん思い出があるこの町民会館は、絶対に忘れません。お世話になったことに感謝しながら、これからも歌い続けていきたいと思います。

“大きな宝”をありがとう
図書館ボランティアトロロ代表
加賀美 文子さん



長年、図書館ボランティアをさせていただき、多くの子どもたちや絵本に出会えたことは、私の大きな宝です。いつも私たちを見守り支えてくれた図書館には、感謝の気持ちでいっぱいです。新図書館建設では運営委員として、集う、学ぶ、育つ、伝えるの基本理念のもと皆さんに愛される図書館を目指してがんばります。

また会いましょう。
コーラスで活躍 島崎 忠さん



町民会館建設に大工として携わりました。講堂の天井工事が大変だったのが印象深いです。図書館で調べものや講堂での様々なコンサート、成人式などの思い出が詰まっています。新しい施設でもコーラスをしようと希望を持って、明日から頑張ります！

“新たな芽吹き”を期待
市川アカデミー気軽に講座運営委員会
副委員長 北村 正仁さん



視聴覚室で、歴史、文化など、気楽にわかりやすく解説する「気軽に講座」を平成2年から行ってきました。今後もたくさんの方に来ていただけるように頑張ります。落ち葉は、春には新しい芽を吹き青々とした葉っぱとなります。新施設もすばらしいものになると期待し、完成を待っています。

▼会場内の全員で「花は咲く」を歌う



市川大門町民会館はたくさんの方から寄付をいただく中で建設した施設でした。この場を借りて御礼申し上げます。

